



中国ブロック



発行人：田妻 進
〒734-8551
広島県広島市南区霞 1-2-3
広島大学病院 総合内科・総合診療科
Tel & Fax：081-82-257-5461

ニュースレター No.14 (2017.03)

【中国ブロックでの指導医養成コースの報告】

松坂内科医院・岡山家庭医療センター奈義ファミリークリニック 松坂英樹
岡山家庭医療センター奈義ファミリークリニック 松下明

2016 年度の中国ブロック支部の指導医養成コースである m-HANDS-FDF (modified - Home and Away Nine DayS - Faculty Development Fellowship) の第3回を11月26日～27日に島根大学医学部で開催しました。JPCA-MLなどで募集し中国地方の指導医6名がコースに参加しています。

(指導スタッフは上記の松坂・松下に加え、出雲家庭医療学センター：藤原和成先生・松本翔子先生、福島生協病院：高岡克寿先生、鳥取大学医学部地域医療学講座：井上和興先生、ゲスト講師 山口大学医学部附属病院 総合診療部 准教授：齊藤裕之先生)

以下にコースの概要とフェローからの報告の一部を掲載しますのでご一読ください。2017年度も同じような枠組みを予定しています。

<目的> 中国ブロックの指導医養成

<対象> ・中国ブロックに所属しており、家庭医療後期研修を終了した医師

・中国ブロックの家庭医療後期研修に関わる指導医

Core Competence : Adult Educator(成人学習支援者)

学習者と向き合い、その学びに気を配り、学びの場をサポートできる

教育者の役割と限界を知り、学習者と協同的に学び、生涯学習者を育てる姿勢で関わる

学習者の学びを促進するための知識と技術を適切に用いることができる

興味がありましたら見学は可能なので松坂英樹：hdk.matsuzaka@gmail.com までお問い合わせください。

<第4回 in 岡山 1月28日(土)～29日(日)>

ポートフォリオ教育、模擬ティーチング(家庭医療専攻医対象)、指導のビデオレビュー、卒業制作発表

<ポートフォリオ発表会 in 出雲 3月12日(日)>

中国ブロックの家庭医療専攻医のポートフォリオ発表会の翌日に m-HANDS-FDF の学びからポートフォリオを作成し、ポスター発表、m-HANDS-FDF 2015 の修了生の卒業制作その後の発表

(当日の様子について参加者からの報告)

模擬ティーチング①

今年度、第2回模擬ティーチングを学生5名に対し、各チームで行った。

自分のチームは救急のABCについて技能の獲得を目指して行った。喘息、うっ血性心不全、アナフィラキシーの患者についてチームスタッフが患者役を行い、学生さんに救急のABCを体験してもらった。学年の同じチーム分けと体験を行う前の説明が不十分で問診しようとする学生さんの理解になってしまったのは、残念だった。

その後全体を通じての討論をおこなった。残ってくれた学生さんの意見も参考にして、プレアセスメントが重要だという点と、明確な場面提示が必要だと感じた。また学年構成なども重要だということを感じた。

模擬ティーチング②

「Attitude」の領域として、自分たちのグループが模擬ティーチングを行った。これまでに受けたことはあるものの、自分たちで行ったことはない「シネメディケーション」に挑戦したことが今回の一番のポイントであったと思う。態度領域であり、より画一的な正解がない部分であったため、非常に難しさを感じた。SGDをインタビューへ変更するなど、臨機応変に調整ができた点が良かったと思う。前回も感じたが、「模擬学習者」に対する「模擬ティーチング」のため、参加者である我々にも安全な学習環境が保証されており、新しいティーチングに挑戦できたと思う。次回が最後の模擬ティーチングとなるが、楽しんで行きたい。

Meeting management 他

まず、齊藤先生自身の具体的なご経験をふまえてのプレゼンでは、交渉とはについて簡単な理解が出来た。特に「face to face で話しやすい雰囲気を作る」、「Boots on the ground (相手の方に行って話をする)」は重要事項であると思った。その後、職員の不満感と満足度につながる要因を挙げ、この線は一致しないことを教わった(不満の要因を取り除いても満足にはならない) また職員満足度を上げると結果的に患者満足度につながるということを学んだが、これはケースに寄るようにも思った。

その後、グループで交渉術を実際に行った。ロールプレイを通して短時間で交渉することの難しさを学び、また交渉は感情が絡むことを再度認識した。

会議について講義の後、実際に、「若手医師のいない地域で総合診療の研修医教育を新規で行うか？」について全員で交渉術セッションを行い、苦戦しながらも無事会議は終了した。途中まで反対派であった診療部長を味方につけたことと、医局長の感情に配慮したことが大きな要因であったと考える。一方会議について決裁方法やメインストリームなどを最初に決めていなかったことは反省点であった。

全体を通して現在の自分にとってまさに必要な知識・技術・態度を学べたセッションであった。

私の主張リターンズ

第1回に参加者の説得・共感ないしは賛同を得て具体的な行動を引き起こすための3分間プレゼンテーションが行われた。この反省とフィードバックを受けて、今回は各フェローに30秒間、同様なプレゼンテーションを行ってもらった。

6名のフェローのうち4名はスライドを用いたメッセージ、2名は文房具の特徴を参加者に伝えようとしたが、多くは時間管理に難渋している様子であった。参加者からは、全ての情報を伝えようとせず、行動につながるメッセージを厳選し、詳細は参考となるものを紹介するなどの工夫が必要である、などのフィードバックがあった。

指導のビデオレビュー

(地域での勉強会の振り返り)

- ・学習者に発言を促し、傾聴できていた。
- ・指導の後半の指導者の発言を聞きかかった。
- ・今回の事例で感じたことや今後やってみたいことなどの振り返りを聞いてもよかったのでは。

(新入院プレゼン指導)

- ・ほめたりしていたが、表情や話し方が作られて感じがした。
- ・改善点の指導を盛り込みすぎたので、まず最初に改善ポイントをしばって指導すべき。



カリキュラム評価

事前課題で自身の関わっている教育のカリキュラムの評価をグループで検討した。カリキュラム評価の目的には形成的評価と総括的評価があり、評価する際のポイントとして、なぜ、誰に、何を、どのように、誰が、いつ評価するかを考慮する。シナリオを元にカリキュラムのステークホルダーをあげ、評価する際のポイントに沿ってワークシートを用いてカリキュラム評価を具体的に作成しチームで相談してまとめ上げる作業を行った。

ポートフォリオ教育

最初、ポートフォリオのレクチャーがあり、模擬レクチャーの振り返りを指導医の参加で行いました。それをポートフォリオに仕上げるということを行いました。レクチャーでは、ポートフォリオの位置付け、省察が重要で、その方法もシングルループではない、ダブルループの振り返りとなっている。ダブルループは指導者との振り返り議論をすることで、より深い省察が行えるようになる。ポートフォリオで具体的な事例で記述することで、他者と議論できるようになる。

実際の振り返りを指導医も参加して行った。実際のファシリテートの実演も兼ねていた。

できたこと/できなかったこと/気持ち/NEXT STEP の4分割評を埋める形で議論を行った。

その後、手書きのポートフォリオ項目に従って、ポートフォリオを作成した。手書きのポートフォリオ表は、どこでもなんでもポートフォリオができるメッセージのように感じた。



【山口県支部活動報告】

＜総合診療セミナーin 山口（第6回長州塾）＞

テーマ：闘魂フィジカル塾

日時：平成28年12月10日（土）

講師：和足孝之（島根大学卒後臨床研修センター）

山口大学医学部附属病院にて「闘魂フィジカル塾」を開催しました。講師には医師・学生から絶大な人気を誇る、島根大学卒後臨床研修センターの和足孝之先生をお招きし、身体診察について講演いただきました。「検査のできない環境でどう闘うか」と題し、呼吸音や心音を会場に流し、和足先生のユーモアを交えながらのレクチャーに参加者一同酔いしていました。山口県内だけでなく神奈川県や香川県からの参加もあり、総勢47名の大盛況セミナーとなりました。島根大学の学生も参加され、島根大学と山口大学との学生交流もできました。和足先生から闘魂を注入してもらい、身体診察の闘魂医になれた1日でした。セミナーの後は、懇親会を兼ねた山口県支部会の忘年会を開催し、一年のねぎらいと新たな年への飛躍を誓い、楽しいひと時を過ごしました。



山口大学医学部附属病院 総合診療部 齊藤裕之、原田千里

＜総合診療スプリングセミナーin 山口（第7回長州塾）＞

開催日：平成29年2月11日（土）

テーマ：予防医学アプローチ

講師：宮崎 景（三重家庭医療センター・高茶屋診療所）

森 英毅（長崎医療センター・総合診療科）

日本列島が記録的な大雪に見舞われた2月11日（土）、山口県内でついに「根拠に基づく予防医学セミナー」を開催しました。講師に三重家庭医療センター・高茶屋診療所の宮崎景先生、長崎医療センター・総合診療科の森英毅先生をお招きし、3時間以上にわたり講演いただきました。

ヘルスマネジメントの提供とその種類（スクリーニング、予防接種、予防的薬剤治療、カウンセリング）、エビデンスへのアプローチ法（ePSS、AAFP、科学的根拠に基づくがん検診 etc）、予防医学アプローチをどのようにシステム化していくべきか（院内情報共有、カルテでのHMSのリマインダー etc）、地域に対するアプローチ法（ポピュレーションアプローチ、慢性疾患モデル、Community tool box）など、診察室でできる予防医学から地域全体へのアプローチ方法まで深い議論を交わしました。大寒波のなか開催されたセミナーでしたが、熱い議論が飛び交いました。山口県に予防医療のアプローチという共通言語が生まれた1日となりました。



山口大学医学部附属病院 総合診療部 齊藤裕之

【広島県支部活動報告】

＜第2回広島県総合診療セミナー＞

日時：平成28年12月17日 14:00～17:00

場所：広島グランドインテリジェントホテル

第2回総合診療セミナーが今年も開催され、研修医や指導医を含めて49人が参加しました。下記のようなプログラムで、症例検討8例、レクチャー2題が講演され、活発な議論が交わされました。来年度も開催予定です。

#前半：座長 中村浩士先生 太田茂先生

- ・診断に苦慮した呼吸不全の1例（夏型過敏性肺臓炎）
国立病院機構呉医療センター ○峠香苗
- ・遷延性咳嗽を主訴にして受診した1例（側頭動脈炎）
尾道総合病院 救急総合診療部 ○甲斐あずさ
- ・飲酒後に転倒し救急搬送された20代女性の一例（甲状腺クリーゼ）
国立病院機構広島西医療センター ○長澤佳郎
- ・大腿骨頸部骨折術後に異常出血した一例（抗菌薬によるPT延長・出血傾向）
福山市民病院内科 ○太田茂

#後半：座長 菅野啓司先生 平野巨通先生

- ・女性×床×海老=！？（下垂体前葉機能低下症）
広島市民病院 ○関俊泓
- ・発熱と皮疹で紹介された○○島在住の60代女性（江田島ではじめての日本紅斑熱）
県立広島病院総合診療科 ○岡田尚樹
- ・半年間持続した腹痛の一例（Th12神経鞘腫による腹痛・歩行障害）
広島大学病院総合内科総合診療科 ○石田亮子
- ・急激な認知機能低下およびADL低下を来した高齢者の一例（医原性高カルシウム血症）
吉島病院内科 ○河原章浩

#レクチャー

- ・「総合診療と行動経済学」
広島大学病院総合内科総合診療科 横林賢一先生
- ・「総合診療医が知っておきたいERトリアージスキル」
洛和会丸太町病院 上田剛士先生